



Title	Oxidative Stress and Tumor Progression in Colorectal Cancer
Author(s)	猪熊, 孝実
Citation	(2010-03-19)
Issue Date	2010-03-19
URL	http://hdl.handle.net/10069/25037
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-22T09:35:21Z

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 331 号	氏名	猪熊 孝実
学位審査委員	主 査 伊藤 敬 副 査 永山 雄二 副 査 澄川 耕二		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、大腸癌患者における血清中 Thymidine Phosphorylase (TP) および Reactive Oxygen Species (ROS) と臨床病理学的因子との関連性について明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 大腸癌患者 76 例を対象とし、腫瘍のドレナージ静脈から採血、血清分離した後、ROS は derivative Reactive Oxygen Metabolites (d-ROM) を測定し、TP は ELISA 法にて測定した。d-ROM 値および TP 値と腫瘍径、壁深達度、肝転移との相関を解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、壁深達度の進展により d-ROM 値は高値であった。TP 値は肝転移ありの群で有意に高値であった。さらにリンパ節転移を認めるものでは d-ROM 値は低値であった。今回の結果から、TP は遠隔転移と、ROS は癌浸潤と関連することを明らかにし、酸化ストレスが関与する分子標的治療開発への貢献が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は大腸癌研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			